

支部だより

2019/12/29 No.25 東京支部事務局

2019南伊豆・晩秋撮影会報告

11月29日（金）～12月1日（日）、「南伊豆の晩秋を撮る」をテーマに、山口先生同行による2019年東京支部・晩秋の撮影会が開催された。

今回は山口先生2回目のガイドと撮影指導による撮影会。

初日は12時30分、宿泊先である下田「いずみ荘」に集合、マイクロバスに乗り換え（今回は、念願であったマイクロバスによる撮影地移動）、まず第一の撮影場所・爪木崎に向かった。先生の指導で、断崖の縞模様のグランドキャニオンを思わせる岩肌のある撮影。

そして、夕景撮影は、石廊崎・あいあい岬で日没と星の撮影。星の撮影は、なかなか難しい。撮影終了後は、宿舎に戻り、夕食・懇親会。夕食の時間が少し遅れたため、料理は冷たく、また、部屋も寒い。皆ぶうぶう言いながらの食事（当然、宿舎側にクレーム）。



2日目は5時15分、マイクロバスに集合。早くから準備し乗車する人、時間ギリギリに来る人。参加者13人が揃い、真っ暗な中ドライバーの堀さんの運転により、早朝撮影のスポット・大瀬海岸へ。岩の位置、波の状況、そして、太陽の出る位置を考えながらの撮影。太陽が上がるに従い、海は黄金色に輝き、素晴らしい情景に変わった。

大瀬海岸での早朝撮影後は、宿舎に戻り、朝食。昨日のクレームが効いたのか？ 昨夜の夕食とは違い、暖かい部屋、暖かい朝食。

朝食後は、まだ紅葉が残っている滑沢溪谷へ。岩の

上に散る色づいた落ち葉（もう少し早ければ、きっと落ち葉の色も綺麗だったのでは？ 残念）。溪流の流れ、日差しに微妙に光る木肌と紅葉——日が当たる時間のことも考え、近間で昼食を済ませ、再度、滑沢溪谷へ。少々、危険なところもあったが、なかなか良い作品が撮れた。

そして、夕景は少し遠出して、西伊豆・土肥町・丸山での夕日。水平線と雲の隙間から夕陽——海を黄金色に染め、徐々に赤みを増し、幻想的な光景を見ることができた。



最終日は5時30分集合。宿舎から約30分の所にある弓ヶ浜・壘岬での日の出撮影。ポイントは、海岸・波打ち際——石がごろごろ——転ばぬ様、滑らぬよう注意を払いながら、スポットである水際へ降り、カメラをセット。生憎、曇り空——であったが、時折雲の動きがあり、楽しむことができた。撮影後は記念撮影を撮り、宿舎へ。

朝食後は、先生の提案で、下田ペリーロード見学。カメラを首に下げ、ペリー艦隊上陸の碑、旧澤村邸の見学、その後は川に沿いぶらぶら散歩——どういうわけか、皆散歩中の犬の撮影に集中???

山口先生同行の撮影会は今回で2回目、初めてのマイクロバスによる撮影地移動。前回の秩父撮影と同様、山口先生のガイドとキメ細かな撮影指導。

参加者の皆さんの感想は、お天気にもまあまあ恵まれ、先生のガイドとドライバー堀さんの運転で「ゆったりと撮影ができた！」「参考になった！」「とても良かった！」「是非また開催を！」と好評。

山口先生、堀さん、いろいろとありがとうございました。

皆さん、お疲れ様でした。

そうそう、私は海の撮影は初めて。海は潮が満ちて

くることが、改めて解りました。撮影に没頭すると大変な目にあうことがありますよ！！

皆さん、お気をつけ下さい。（文責：戸張 真）

東京支部第17回作品展報告

10月18日から24日にかけて、JNP 東京支部第17回作品展を、富士フォトギャラリーSPACE2にて開催しました。写真愛好家の皆さま、JNP 各支部(群馬支部、埼玉支部、千葉支部、神奈川支部)の方々、川隅功先生、山口高志先生、萩原史郎先生、また、写団薬師の喜多さん、写団渡良瀬の田原さん、自然奏の斎藤のり子さん、大阪支部の前山さんなど写真界で活躍されている多数の方々にきていただきました。

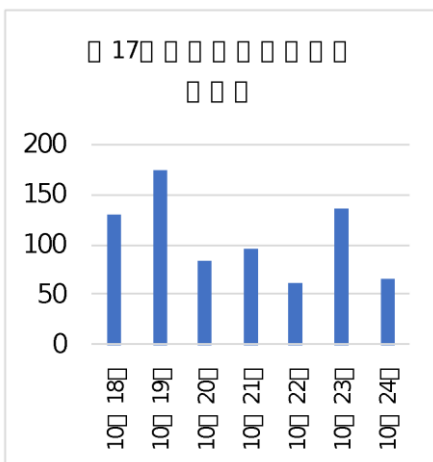


日本風景写真協会東京支部 2019年作品展 「秀麗彩美」 出会いの瞬間



皆様のおかげで、良い作品展になりました。ありがとうございました。（文責：井上武夫）

来場者の感想はおおむね好評でした。総来場者数は約750人と、昨年開催(11月約1000人)に比較すると少なめでしたが、今回は10月中旬開催で、紅葉撮影のハイシーズンとの重なり、及び天候不順が原因と考えられます。作品展終了後、山口先生にも加わっていただき、打ち上げ、反省会を行いました。



紅葉撮影のハイシーズンとの重なり、及び天候不順が原因と考えられます。作品展終了後、山口先生にも加わっていただき、打ち上げ、反省会を行いました。



“私のお気に入り撮影スポット” 2019年第4回

奥日光 蓼の湖(タテノウミ)をご紹介します。おそらく行ったことがある方は居ないのではないかと思います。ここは、知る人ぞ知る奥日光の奥座敷、箱庭です。

まず行き方です。国道120号沿いに「湯の湖」を左に見て湯元温泉との分岐を金精峠方面に800mほど進むと右手に5、6台可能な駐車場があります。そこから刈込湖方面の登山道に入ります。緩やかな登りの登山道を200mほど進み左下を注意深く見ると木々の間にわずかに水面が光っているのが見えます(これを見つけるのが大切なポイントです)。それが蓼の湖です。踏み跡がほとんど無いので、方角を確認しながら降りていきます。湖面が見えたら足元に注意しながら降りて右に巻いていくと良いでしょう。周囲は1kmもない小さな湖です。澄んだ湧水が2か所にあり湖に注ぎ込んでいます。



今まで四季を通じて何度も行きましたが、初夏（6～7月）が一番良いです。木々の緑が濃くなり岩や地面の苔の色が輝いてくるからです。絶景の苔庭を堪能できます。

また、出会う動物は鹿とニホンザルです。撮影していると遠巻きに見ています。ところで、今まで一度も人に出会ったことがありません。まさに独り占めできます。別世界にいるのではないかと錯覚するほどです。なお、方向音痴な方は帰り道にご注意願います。赤布も赤ペンキもありませんので、積雪期は金精道路が湯本入口で閉鎖されますので、湯本温泉からスノーシューを付けて行きます。



今年（2019年）の10月にも行きましたが、台風14号、19号の大雨で、無残な様相になってしまいました。一日も早い回復を願うばかりです。元の箱庭に戻ったら、是非ともお出かけください。（文責：中島幸男）

写友広場

秋といえば「文化の秋」です。文化の秋の由来となる言葉は読書の秋だと言われていますが、われら風景写真愛好家の秋は、インドアで読書というよりは、大自然に抱かれて撮影です。9月のすすきに始まり、山を彩る錦繡から初冬の霜の降りた枯れ葉に至るまでカ

メラを持って追いかけて、秋は過ぎます。そして、その成果が評価されるコンテストや展覧会が多いのも秋です。

この秋、東京支部では以下の方々が見事な成績をあげられました。

隔月刊誌「風景写真 2019.9-10」

単写真優秀作品 藤野治雄「光注ぐ」

JPA 第17回公募展

自然風景部門 奨励賞 下川床昭子さん「飛び入り」
 入選 太田桃子さん「厳冬の朝」
 入選 佐々木節子さん「氷の仮面」
 入選 鈴木 雍人さん「揃い踏み」

リコーイメージングフォトコンテスト（風景部門）

銅賞 高橋 清さん「雲上彩宴」

PFJ 第9回公募展

入賞（銀賞） 鈴木 雍人さん「水辺の風景」
 入賞 藤野 治雄さん「清流」
 入選 太田 桃子さん「初秋の丘」
 入選 戸張 伸子さん「匂うがごとく」

JNP 選抜展

入選 山田 智一さん「厳寒の朝」
 入選 須加尾 浩さん「幻想の湿原」
 入選 戸張伸子さん「妖精の棲む森」

富士フィルム100人展

入選 高橋 清さん「山嶺曙光」

富士フィルムXtension展

入選 戸張 伸子さん「春の足音」

この秋ではなくてももう少し前5月ですが、以下の快挙もありました。

二科展 入選 藤野治雄さん「市場へ」

IPCC 写真倶楽部展（第17回）のご案内

開催日：2020.1.24（金）～1.30（木）

開催場所：写真弘社フォトアート銀座内

開催時間：平日：10時～19時

土・日：17時まで

最終日：15時まで

東京支部事務局より

東京支部事務局は、「写友広場」への皆様からの情報提供をお待ちしています。また撮影の体験談や写真もどしどしお寄せ下さい。（文責：泉屋）